

令和4年度 第2回部長会議 会議記録（要旨）

開催日時：令和4年4月13日（水） 14時00分から15時00分まで

開催場所：分散型WEB会議（市長公室、A203-204会議室）

出席者：佐藤市長、高田副市長、熊谷教育長、原田総務部長、塚平企画部長、細田リニア推進部長、塚平市民協働環境部長、高山健康福祉部長、申原産業経済部長、星野産業経済部参事、米山建設部長、毛利建設部参事、田中危機管理部長、土屋上下水道局長、齊藤市立病院事務局長、北原会計管理者、和泉議会事務局長、松下教育委員会参与、佐々木財政課長、小室秘書課長、小椋南信州広域連合事務局次長、林企画課長

会議内容

1 理事者あいさつ

＜市長＞

- ・新型コロナウイルス感染症について、過去最多の感染者数が公表されている。様々な場所で集団感染が起っており、また、感染経路不明の感染者も多数出ている。モードチェンジしていく必要があるなかで、これからの連休に向けて、どういう方針で臨むのか検討していかなければいけない。
- ・感染経路不明という方が多数いるということは、感染拡大も想定しなければいけない状況である。情報を共有しながら、一緒に対策を考えたい。

＜副市長＞

- ・新年度スタートして半月経過する。人事異動や新規採用職員を迎えての新たな体制でスタートしているが、新型コロナウイルス感染症の影響によりままならないこともあると思う。そのような状況であっても、できる限り早く、意見を交わせる風通しの良い環境を作っていただき、しっかりと仕事ができるような組織にしていく努力を部長からしていただきたい。

＜教育長＞

- ・4月9日に、恒川官衙遺跡公園のお披露目会があり、史跡として大事にしていきたいと感じた。
- ・遠山郷において、子どもたちの放課後の受け入れ先として、子供広場が開設した。公民館を中心にして地元の皆さんの努力や情熱を感じた。
- ・新型コロナウイルス感染症については、学級閉鎖、学年閉鎖とする学校が出てきている。家庭内での感染が増えている状況もある。学校においても保健所と連携をとりながら対応していきたい。

2 協議事項

(1) ゼロカーボンシティ推進本部の設置について（市民協働環境部）

◇趣 旨

2050年ゼロカーボンシティの実現に向けて、推進母体として環境政策の推進を強力にするための組織を設置したいとするもの。

◇論点・課題

- ・現段階では目標達成に向けた毎年の事業を積み重ねる形のロードマップがなく、環境や世界情勢の変化が大きいことにより、数値目標しか持つことができていないという現状がある。
- ・各部局が脱炭素に向けて何ができるか、より効果的に進めるにはどうするのが良いのかについて協議し、全庁で目線を合わせて着実にこれを実行に移していくことが求められている。
- ・部局横断的かつ集中的な政策に関する協議、意思決定を行い、力強いリーダーシップのもとに速やかに政策実行に移していくための体制を作りたい。

◇主な意見等

(教育委員会参与)

- ・ゼロカーボンシティ宣言は、行政、事業者、市民の代表的な立場としての議会が一緒に宣言をし、取り組んでいくということで進んできた。
- ・新設する推進本部は、行政が1つの事業所として他の事業者や市民の取組を高めていくための足元を固めるという側面と、市民生活や事業者の活動に大きく影響を及ぼし作用するような政策の枠組みを作りながら推進をしていくという側面の2側面があるという認識でよいか。

(議会事務局長)

- ・議会も共同宣言したという経過がある。議会とも協議する場を設定いただきたい。

(企画部長)

- ・ゼロカーボンの実現は現実的に極めて難しい取組であり、集中的に資源を投資して取り組む必要がある。推進本部はゼロカーボンに特化して行うということなのか、広義の意味での環境のための本部であるのか。

(ゼロカーボンシティ推進課副参事)

- ・地域によって持続可能な形でのゼロカーボンというのはどういうものかということを経験しながら進めていく必要がある。ゼロカーボンにどのように繋がるかということを検証しながら、繋がり具合によっては濃淡があるものを許容し、進めていくものと考えている。

(企画部長)

- ・以前あったISO推進本部が、現在部長会に一本化された経過がある。かつてのISO推進本部会議との違いはなにか。

(ゼロカーボンシティ推進課副参事)

- ・ISOも包含して政策的な視点が強い内容を所管するものと考えている。

(市長)

- ・ゼロカーボンシティもいいだ未来デザイン2028中期計画などで全体的に向かっていく都市像の1側面。
- ・市政を進めていく中で、ゼロカーボンにフォーカスを当てて集中的に議論をし、推進するために推進本部を設置するものと理解する。

◇協議結果

部長会了承

(2) 飯田市ISO14001運用の今後の展開について（市民協働環境部）

◇趣旨

飯田市ISO14001をゼロカーボンシティ推進本部の進行管理を図るツールとして活用する。また、ISO14001自己適合宣言を取りやめ、飯田市独自のマネジメントシステムとして運用する。

◇論点・課題

- ・行政評価、未来デザインの中期計画に関する評価、監査などのいくつかの評価が並行して行われている中で、さらにISOの評価を行うということの煩雑さについて内部監査でも疑問が呈されてきた。
- ・事務事業進行管理には従来のISOの評価の仕組みを残しつつ、中期計画のSDGsの目標と個々の事務事業との関連性が今まで明確でなかったため、ISO14001の評価の記述欄に対応する記述欄を事務事業進行管理に設けることとする。このことで、ISOの評価、SDGsの掲げた目標、当該事務との関連性をまとめ、評価の一本化を図る。
- ・ゼロカーボンシティ推進本部の立ち上げと同時に、環境マネジメントシステムのシステムの骨格を残しながらもこれに準拠する自己適合宣言の運用を卒業し、新たにゼロカーボンシティの推進と中期計画の推進に軸を置いた、飯田市独自のマネジメントシステムとしていきたい。

◇協議結果

ゼロカーボンシティ推進本部にて検討することを部長会として了承

(3) 飯田市役所地球温暖化防止実行計画の改訂について（市民協働環境部）

◇趣 旨：国の地球温暖化対策計画の改正案が閣議決定され目標値が上方修正されたことに伴い、当市の実行計画について改訂を行う。

◇論点・課題

- ・国と同様に2050年の最終目標をCO₂実質排出量ゼロとした場合、半期の2024年には経過を示しながら削減値28.3%を目指す必要があるため、本計画で各年の数値目標を定める。
- ・21' いいだ環境プラン第5次改訂版の方向性や取組は継続しながらも、引き上げられた目標の達成に向けて、CO₂の削減幅をさらに増やして取組を加速させていく。

◇主な意見等

(企画部長)

- ・ゼロカーボンの電力を飯田市だけで買ってしまうと、1事業所としてはいいが、他事業者が買えない状況ではゼロカーボンシティの推進にはならない。ゼロカーボンシティの実現と事業所としての市の取組は分けて考えていく必要がある。

(市民協働環境部長)

- ・今回は、概要として説明をさせていただいた。組織の立ち上げはご理解いただけたため、推進本部会議で時間をとって細かく説明をさせていただく予定である。

(市長)

- ・ISO等の取組がそれぞれ別建てになっている状況を、一本化したいということが指示事項である。いいだ未来デザイン2028で行われている、評価や改善の仕組みに溶け込ませる形でできるだけシンプルな内容に、かつ、効率良く行えるようにしてもらいたい。
- ・推進本部会議でより細かく説明とのことであるが、あまり細かくしてしまうと分かりにくくなってしまうこともあるため、できるだけシンプルにまとめてもらいたい。

◇協議結果

ゼロカーボンシティ推進本部にて検討することを部長会として了承

4 閉 会